

[主訴]

夜間に咳が悪化する

[随伴症状]

肩凝り、痰、喉の違和感

イライラなし、爪異常なし、眼精疲労なし、筋痙攣なし、胸脇苦満なし

夜間排尿なし、腰痛あり

[経過]

2か月前に風邪をひき、風邪は1週間程度で治ったが咳が出始め未だに治らない。特に夜中に咳が激しくなる。熱はない。

[切診]

肺経圧痛あり。

咳をしすぎた為か頸部も圧痛あり。

太谿陥凹、やや力なし

[腹診]

中府熱感あり、臍下不仁あり

[脈診]

全体的にやや力あり、浮いている。  
臓腑の脈差はあまりない。

[証の決定]

腎虚熱証と肺熱

[治療]

復溜、経渠の補法。  
腎俞の補法。  
尺沢、孔最の瀉法。

[備考]

初診時に明日も来院するように伝える。結果、4日連続で治療した。

初診で咳が 10→6 に改善

2 診で 10→4

3 診で 10→3

4 診で約 2 か月続いた咳がほぼ治まったことを 2 週間後に肩凝りで来院された際に確認した。

夜間に悪化する咳は肺の熱が原因であることが多い。  
問診等で腎の虚を主軸として腎を補いながら肺を瀉す治療とした。

選穴は喘咳寒熱に効がある金穴をとるが、肺経は切診で圧痛部の取穴を優先した。

3 番鍼で瀉法。

風邪のあとの夜間の咳等の急性症状は鍼灸治療の効果も早く現れやすい。

今回も初診の治療で夜間の咳の軽減が確認できた。急性症状なので連日の治療を薦め、4 日連続で治療できたのも短期間での症状改善に繋がったと考える。